

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）

（分担）研究報告書

ブロック拠点病院のない自治体における中核拠点病院の機能評価と体制整備のための研究

課題番号：H30-エイズ-一般-003

【分担研究5】在宅介護職員の実施研修

研究分担者：小野恵子

（愛媛大学医学部附属病院 総合診療サポートセンター・ソーシャルワーカー）

研究要旨：四国のようにブロック拠点病院が近辺になく、県内の個々のエイズ拠点病院が十分に機能していない、いわゆる地方の比較的医療過疎である地区に、本研究によってHIV診療の充実や均てん化が促されていくことが期待されている。令和2年度の研究成果として、3回実施したが、HIV患者の介護に直接当たってもらうことが差し迫った事情であることを踏まえ、県内の在宅介護職の看護師に各々3日間ずつ研修会として、当院のHIV患者の実施研修（外来、病棟）と講義・討議を行った。具体的な研修により、HIV感染症に関する啓蒙とともにHIV患者の在宅医療の推進にも繋がり、極めて意義深い研究活動と考えている。

研究分担者

高田清式・愛媛大学医学部附属病院・教授
末盛浩一郎（愛媛大学医学系研究科・特任講師）

井門敬子・愛媛大学医学部附属病院・副薬剤部長

若松綾・愛媛大学医学部附属病院・看護師

A. 研究目的

ブロック拠点病院が近辺にない愛媛県において当院は、エイズ地域中核拠点病院に指定され、累計200名以上の患者を治療している。四国地区は近年HIV・エイズ患者の増加が著しく、大半の患者が当院に受診している。かつ四国地区は高齢化率が29%前後の地方であり、都市に比べ高齢者のHIV・エイズ患者が多く、HIV感染および合併症が進行し日常生活に差し障りが著し

く在宅の長期療養が必要な例も少なくない。当院は急性期病院の立場であり、自宅で自立した生活が困難な長期療養患者の対応については、HIVに対する不安や感染リスクが問題になり、受け入れに難渋しているのが実情である。この実情のもと、具体的な研修を行い、HIV感染症に関する啓蒙とともにHIV患者の在宅医療の推進にも繋げて行くことを目的とした、極めて意義深い研究活動と考えている。

また、アンケート調査等を通じ地方のHIV診療に関する連携の実態を把握し問題点を検討する。

B. 研究方法

HIV患者の介護に直接当たってもらうことが差し迫った事情であることを踏まえ、県内の在宅介護職の看護師に各々3日間ずつ研修会として、当院のHIV患者の実施研

修（外来、病棟）と講義・討議を年に数回行った。

（倫理面への配慮）

患者および関係者に対する人権の保護に配慮して行い、調査に協力できない場合も不利益にならないようにする。

C. 研究結果

令和2年度には3回実施した。HIV患者の介護に直接当たってもらうことが差し迫った事情であることを踏まえ、県内の在宅介護職の看護師に各々3日間ずつ研修会として、当院のHIV患者の実施研修（外来、病棟）と講義・討議を行った（図）。

令和2年度 HIV/AIDS診療研修生スケジュール 研修期間: 03年 2/15~2/17			
		愛媛大学医学部附属病院	
日時	1日目 2/15(月)	2日目 2/16(火)	3日目 2/17(水)
9:00	オリエンテーション (山原所長)		TMSIC習字/ 医療ソーシャルワーカー講義 研修、地域連携 【小野 敬司】 臨床研修センター
9:30	基幹講義 HIV/AIDSについて (末達医師) 臨床研修センター	標準予診票 1-7病棟見学 病棟看護 【二宮看護士】1-7病棟	1015~感染症科(4F)臨床検査技師 臨床研修センター
10:00			
10:30			
11:00	外来実習 (高田医師、本郷看護士)	看護講義 外来/床頭看護 臨床研修センター	心療士講義 (伊藤心療士) 臨床研修センター
11:30			
12:00		昼休憩	昼休憩
12:30			
13:00			
13:30	13:15~ 昼休憩	歯科診療+口腔ケア (橋本歯科衛生士) 臨床研修センター	
14:00	14:15~ DVO【HIV/AIDSの医学的知識】 DVO【性の健康と権利 地域連携 看護部】 【HIV陽性者の生活と社会参加】 【HIV陽性者の臨床と研究】 【地域との連携 MSN】	医師講義 愛媛県の現状と在宅医療、性感染症 (高田医師) 臨床研修センター	基本研修講義 (奥松医師、木村薬剤師、井門薬剤師) 臨床研修センター
14:30			
15:00	看護科講義 在宅医療 (北松看護士) 臨床研修センター		
15:30		1日巡回演習	
16:00			研修(末達医師) 臨床研修センター
16:30	HIVカンファレンス 1-7病棟		
17:00			

図 在宅介護研修スケジュール（黄色部は実習中心、白色部は講義と討議）

計6名の研修を行ったが、アンケートを行ったところ研修の全体的には全員満足度は高かった。また、研修前は半数が受け入れに不安であったが、研修後は全員が受け入れ可能とのアンケート結果であった。

具体的意見として、外来見学では、「愛媛県のHIV診療の全体の体制が理解できた。普通に外来に来られており、また、外来で必要な情報や意見が生の声として聞け

た。口腔ケアについて細部にわたり理解できた。実際にどのようにHIV感染患者とかかわっているのかが判ってよかった。基本的な薬や検査について理解できた。」などの意見があった。

病棟実習では、「HIV患者の退院後の健康管理や生活指導などが学べた。在宅看護者に求められていることが理解できた。」などの意見があった。

さらに講義、カンファレンスも含め全体的な意見として、「多職種の見解も含めて全体像が見られた。各職種が意見を持ちあい、方向づける関係が素晴らしいと思った。皆が患者のことを想って綿密に話し合っていることが伺えた。このような討議で情報の十分な共有がなされていることが判った。チームの関係性が良く話し合いやすい雰囲気であった。今後の介護の役に立つことを強く感じた。」という前向きな意見が多く、HIVの介護・在宅医療の充実がさらに図れた。

D. 考察

令和2年度の研究成果として、3回実施したが（計6名受け入れ）、HIV患者の介護に直接当たってもらうことが差し迫った事情であることを踏まえ、県内の在宅介護職の看護師に各々3日間ずつ研修会として、当院のHIV患者の実施研修（外来、病棟）と講義・討議を行うことができた。具体的な研修により、HIV感染症に関する啓蒙とともにHIV患者の在宅医療への推進にも繋がり、極めて意義深い研究活動と考えている。アンケートの結果、かなり前向きで好意的な意見も多く見受けられ、HIV感染症に対する偏見や誤解が解け、さらに最

新の知識が得られる良い機会と考えられた。さらに近々具体的な患者の在宅医療への受け入れが円滑に進むことを期待している。

E. 結論

在宅介護職の看護師に対し、実施研修を3回実施した。HIV患者の介護に直接当たってもらうことが差し迫った事情であることを踏まえ、県内の在宅介護職の看護師に各々3日間ずつ研修会として、当院のHIV患者の実施研修（外来、病棟）と講義・討議を行った。具体的な研修により、HIV感染症に関する啓蒙とともにHIV患者の在宅医療への推進にも繋がり、極めて意義深い研究活動と考えている。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. 末盛浩一郎、田中景子、石川明子、小野恵子、芝田佳香、武田玲子、若松綾、宮崎雅美、中尾綾、乗松真大、木村博史、山岡多恵、井門敬子、竹中克斗、高田清式。愛媛県の各医療機関におけるHIV/AIDS研修会後のアンケート調査を介した比較検討。日本エイズ学会誌, 23(1):26-32, 2021,
2. Nakao A, Yamanouchi J, Takenaka K, Takada K. The Iowa Gambling Task on HIV-infected subjects. J Infect Chemother. 26(3):240-244, 2020
3. 高田清式。新型コロナウイルス感染症の今わかっていること。EOCA（愛媛臨床整形外科医会会報）:35（1）5-10, 2020.

4. 福井亜里沙、早淵 修、本田真仁、吉田圭佑、片岡秀之、山口普史、高田清式、市原新一郎。早期治療介入により重症化を免れた熱帯熱マラリアの1例。四国医学雑誌. 76（3, 4）:197-202, 2020.

5. 中村美保、前田英武、岡崎雅史、西田拓洋、朝霧正、四國友理、北村優衣、高田清式、武内世生。医療機関におけるHIV陽性者受け入れ時の問題点と解決への取り組み。日本エイズ学会誌（投稿中）

2. 学会発表

1. 高田清式。HIV感染症の最近の話題。日本内科学会第64回北海道支部生涯教育講演会、2020年、北海道、WEB開催
2. 菊地正、蜂谷敦子、西澤雅子、椎野禎一郎、俣野哲朗、佐藤かおり、豊嶋崇徳、伊藤俊広、林田庸総、渦永博之、岡慎一、古賀道子、長島真美、貞升健志、近藤真規子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂寛、渡邊珠代、今橋真弓、松田昌和、重見麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊大、小島洋子、森治代、藤井輝久、高田清式、中村麻子、南留美、山本政弘、松下修三、健山正男、藤田次郎、杉浦 互、吉村和久、国内新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性HIV-201の動向。日本エイズ学会、2020年、WEB開催
3. 谷口裕美、岡本愛、村上晶子、森本麻里、川野由季、西村真智子、末盛浩一郎、宮本仁志、高田清式、当院におけるHIVスクリーニング検査偽陽性例の検討。日本エイズ学会、2020年、WEB開催
4. 中尾綾、武田玲子、藤原光子、本園薫、末盛浩一郎、山之内純、竹中克斗、高

田清式、HIV 感染者への POMS2 を使用した精神的支援の検討。日本エイズ学会、2020 年、WEB 開催

5. 臼井麻子、中尾綾、西田拓洋、吉川由香、海面敬、吉武亜紀、赤松祐美、池谷千恵、中村美保、川田通子、佐藤譲、武内世生、窪田良次、尾崎修治、和田秀穂、千酌浩樹、山下光、山之内純、高田清式、中国四国地方における HIV 関連神経認知障害に関する研究 -中間報告-。日本エイズ学会、2020 年、WEB 開催

6. 乗松真大、井門敬子、松本卓也、本園薫、末盛浩一郎、飛鷹範明、田中守、高田清式、抗 HIV 薬ラルテグラビルが原因で Grade 3 の血圧上昇をきたした 1 症例。日本エイズ学会、2020 年、WEB 開催

7. 高田清式、末盛浩一郎、村上雄一、高齢者のアフリカ旅行後の重症マラリアの治療例、グローバルヘルス合同大会 2020, 2020 年、WEB 開催

H. 知的財産権の登録状況（予定を含む）

該当なし